

衛生害虫等の同定検査について

人の生活に衛生上の害を与える虫は衛生害虫と呼ばれ、人の血を吸うもの、咬んだり刺したりするもの、場合によっては伝染病を媒介するものもあります。また、家屋や衣類、食品に加害する経済害虫や、直接的には害はなくても、人に不快感を与える虫(不快害虫)もいます。

当所では、県民や県内事業所から保健所に寄せられる衛生害虫等に関する相談のうち、害虫の同定が必要で、保健所では同定できないケースにおいて、保健所からの依頼を受けて同定検査を実施しています。

衛生害虫等の種類

同定検査の方法

衛生害虫	
媒介害虫	感染症などの疾病を媒介する害虫 (例) 蚊、ダニ、ツツガムシ
有害害虫	吸血害虫 (例) 蚊、ノミ、ダニ 刺咬害虫 (例) ハチ、クモ 皮膚炎・アレルギーを引き起こす害虫 (例) ダニ、ユスリカ
経済害虫	
食品害虫	(例) マメゾウムシ、ノシメマダラメイガ
衣類害虫	(例) カツオブシムシ、イガ
家屋害虫	(例) ヤマトシロアリ、ヒラタキクイムシ
不快害虫	不潔感、悪臭、視覚的不快感をともなう害虫 (例) ゴキブリ、ハエ、カメムシ

虫の同定は形態に基づいて行います。形態観察には主にデジタルマイクロスコープを使用しています。デジタルマイクロスコープは被写界深度が深い高性能レンズと深度合成機能を備えているため、立体的な対象物でも全体にピントが合った鮮明な画像を得ることができるため、虫の観察に適しています。



実体顕微鏡



デジタルマイクロスコープ



同定事例

衛生害虫

不快害虫・経済害虫

カバキコマチグモ

セアカゴケグモ



日本在来の毒グモ
7~9月頃に出現

県内でも生息が確認されている外来種の毒グモ

ケブヒラタキクイムシ

アズキノウムシ



代表的な木材害虫
家具から多数発生

貯蔵中の豆類を食害
家の中で大発生

タカサゴキララマダニ

キチマダニ



草むらや藪に生息し、人やほ乳動物を咬む
マダニ類は重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や
日本紅斑熱等のウイルス感染症を媒介

マルカメムシ

クロバネキノコバエ



10~11月の天気の
良い日に多数発生
悪臭を放つ

体長2~4mmの小さなハエ
県内各地で6~9月に
大発生し、屋内にも侵入